

学生の確保の見通し等を記載した書類

学生の確保の見通し等を記載した書類

【目次】

| | |
|--|------|
| 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 | p 3 |
| (1) 学生の確保の見通し | p 3 |
| ①定員設定の考え方 | p 3 |
| ②定員充足の見込み | p 4 |
| ③定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 | p 7 |
| ④学生納付金の考え方 | p 12 |
| (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況（予定含む） | p 13 |
| ①広報・募集活動における取組 | p 13 |
| ②受験・入学に際した取組 | p 14 |
| ③修学支援に関する取組 | p 14 |
| 2. 人材需要の動向等社会の要請 | p 14 |
| (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） | p 14 |
| (2) 上記が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 | p 15 |
| ①我が国が直面する課題と大学が果たすべき役割 | p 15 |
| ②健康長寿社会を支える技術・イノベーションを支える人材の必要性 | p 16 |

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員設定の考え方

東北医科薬科大学大学院医学研究科医学専攻(博士課程)(以下「本研究科」という。)の定員設定にあたって、本学医学部の使命を踏まえた本研究科の設置の趣旨及び養成する人材像とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育を実践するための教員体制及び教育施設等と学生数のバランスを総合的に勘案した。さらに、地域医療に貢献する医師を育成するという本学医学部の使命を果たすべく修学資金枠を定員の半数余りとしている本学医学部の特殊性も考慮し、入学定員を10名とした。

東日本における私立医科大学の医学部定員及び医学系研究科入学定員・入学者数・充足率とその平均値(表1)を見ると、医学系研究科入学定員の最小設定は国際医療福祉大学の20名、最大設定は順天堂大学の160名であり、平均値は約56名となる。医学研究科の基礎となる医学部医学科の定員設定(表1)の規模は本学医学部の入学定員(100名)と大きく変わらないが、各大学の医学研究科の入学定員の設定は幅広い状況である。各大学の医学系研究科入学者の状況をみると入学者数の平均値は約43名で定員充足率の平均値は約77%に留まっているが、全研究科にて10名以上の入学者を確保している。本学医学部の入学定員の半数は修学資金枠である特殊性も考慮し、他大学医学研究科よりも少ない10名の入学定員とした。

本学が設定した入学定員10名について、後述する全国の医学系研究科への入学状況、本学医学部の入試状況、本学医学部在学学生及び研修医・専修医等への大学院進学需要調査等から学生の確保が可能であると考ええる。

| NO | 大学名 | 研究科等名 | 入学定員 | 入学者数 | 充足率 | 医学部医学科の入学定員 |
|--------|------------|--------|-------|------|--------|-------------|
| 1 | 岩手医科大学 | 医学研究科 | 50 | 36 | 72.0% | 130 |
| 2 | 自治医科大学 | 医学研究科 | 25 | 30 | 120.0% | 123 |
| 3 | 獨協医科大学 | 医学研究科 | 41 | 39 | 95.1% | 120 |
| 4 | 埼玉医科大学 | 医学研究科 | 50 | 18 | 36.0% | 130 |
| 5 | 国際医療福祉大学 | 医学研究科 | 20 | 19 | 95.0% | 140 |
| 6 | 杏林大学 | 医学研究科 | 34 | 14 | 41.2% | 117 |
| 7 | 慶應義塾大学 | 医学研究科 | 80 | 86 | 107.5% | 113 |
| 8 | 順天堂大学 | 医学研究科 | 160 | 177 | 110.6% | 140 |
| 9 | 昭和大学 | 医学研究科 | 60 | 60 | 100.0% | 110 |
| 10 | 帝京大学 | 医学研究科 | 70 | 39 | 55.7% | 120 |
| 11 | 東京医科大学 | 医学研究科 | 68 | 45 | 66.2% | 120 |
| 12 | 東京慈恵会医科大学 | 医学研究科 | 69 | 43 | 62.3% | 110 |
| 13 | 東京女子医科大学 | 医学研究科 | 39 | 22 | 56.4% | 110 |
| 14 | 東邦大学 | 医学研究科 | 35 | 39 | 111.4% | 115 |
| 15 | 日本大学 | 医学研究科 | 64 | 38 | 59.4% | 120 |
| 16 | 日本医科大学 | 医学研究科 | 70 | 48 | 68.6% | 121 |
| 17 | 北里大学 | 医療系研究科 | 40 | 28 | 70.0% | 119 |
| 18 | 聖マリアンナ医科大学 | 医学研究科 | 60 | 28 | 46.7% | 115 |
| 19 | 東海大学 | 医学研究科 | 35 | 13 | 37.1% | 118 |
| 私立大学 計 | | | 1,070 | 822 | 76.8% | 2,291 |
| 平均値 | | | 56.3 | 43.3 | 76.8% | 120.6 |

※ 大学入学情報図書館RENAアンケート調査(2019年度)、大学ポータルサイト私学版(日本私立学校振興・共済事業団作成・運営)及び各大学ホームページから本学にて作成

表1: 私立医科大学医学研究科(東日本)の入学定員・入学者数・充足率及び基礎となる学部(医学部医学科)の入学定員一覧(2019)

② 定員充足の見込み

<医学研究科博士課程入学者の現況>

一般社団法人 全国医学部長病院長会議医学部大学院のあり方検討委員会が実施したアンケート調査によれば、過去3年間（2017年度～2019年度）における全国の医学部大学院医学研究科博士課程の入学者動向は、下記の表2のとおりである。

総計（医学部医学科出身者+医学部医学科以外出身者）

| | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 3年間合計 | 比率 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 入学者 | 4,461 | 4,489 | 4,395 | 13,345 | |
| うち 社会人学生 | 2,599 | 2,682 | 2,611 | 7,892 | 59.14% |
| 留学生 | 396 | 455 | 438 | 1,289 | 9.66% |
| 専攻医 | 338 | 367 | 415 | 1,120 | 8.39% |

（内訳）

医学部医学科出身者で医学研究科博士課程へ入学した者

| | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 3年間合計 | 比率 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 入学者 | 3,583 | 3,583 | 3,487 | 10,653 | |
| うち 社会人学生 | 2,203 | 2,228 | 2,160 | 6,591 | 61.87% |
| 留学生 | 158 | 174 | 167 | 499 | 4.68% |
| 専攻医 | 338 | 367 | 415 | 1,120 | 16.99% |

医学部医学科出身以外で医学研究科博士課程へ入学した者

| | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 3年間合計 | 比率 |
|----------|--------|--------|--------|-------|--------|
| 入学者 | 878 | 906 | 908 | 2,692 | |
| うち 社会人学生 | 396 | 454 | 451 | 1,301 | 48.33% |
| 留学生 | 238 | 281 | 271 | 790 | 29.35% |

※一般社団法人全国医学部長病院長会議 医学部大学院のあり方検討委員会
「医学部大学院の現況に関するアンケート調査(令和4年2月)」から本学にて作成

表2：全国医学部大学院医学研究科 入学者動向（2017～2019年度）

過去3年間での医学研究科博士課程への入学者数は約13,000人、各年4,500人弱で安定的・継続的に推移している。

入学者の約8割を占める医学部医学科出身者で医学研究科博士課程へ入学した者については、3年間合計で約10,000人、各年3,500名前後で推移している。一方、医学部医学科出身以外で医学研究科博士課程へ入学した者も各年900名前後の入学者（全体の約2割）が存在し、入学者の第2のターゲットゾーンとなっていることが理解される。

全体的に、社会人学生の割合が高いこと（医学部医学科出身者で約6割、医学部医学科出身者以外で約5割）、また、医学部医学科出身者においては、専攻医の入学が増加傾向にある（3年間で338名→415名：約23%増）ことがこの表から見て取れる。本研究科でも、医学部医学科以外の出身者や社会人学生、専攻医を受け入れる。

<本学医学部の入試状況>

本研究科の基礎となる医学部は、平成 28 年 4 月に開設され、令和 4 年 3 月末で 6 年間の経過し完成年度を迎えることとなる。定員は 100 名であり、修学資金枠が 55 名、一般枠が 45 名である。修学資金枠 55 名中、卒業後一定期間（義務年限）を本学所在地である宮城県で勤務する枠が 30 名、東北 5 県のいずれかで勤務する枠が計 25 名である。この間の医学部の入試状況は表 3 に示すとおり、過去 6 年間すべてにおいて、定員を充足している。

| | 募集定員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願倍率 | 実質競争倍率 |
|--------|------|-------|-------|------|---------|-------|--------|
| 2021年度 | 100 | 1,765 | 1,684 | 355 | 100(30) | 17.7倍 | 4.7倍 |
| 2020年度 | 100 | 1,642 | 1,582 | 325 | 100(21) | 16.4倍 | 4.9倍 |
| 2019年度 | 100 | 1,740 | 1,575 | 281 | 100(28) | 17.4倍 | 5.6倍 |
| 2018年度 | 100 | 1,873 | 1,673 | 227 | 100(30) | 18.7倍 | 7.4倍 |
| 2017年度 | 100 | 2,240 | 2,042 | 256 | 100(20) | 22.4倍 | 8.0倍 |
| 2016年度 | 100 | 2,458 | 2,278 | 297 | 100(19) | 24.6倍 | 7.7倍 |

(女子内数)

表 3：東北医科薬科大学医学部における入学試験の実施状況（2016 年度～2021 年度）

本研究科では専攻医や社会人学生を受け入れること、また宮城県修学資金枠では義務勤務中の社会人学生としての大学院入学が認められていることから、本学 1 期生（2021 年度卒業）が臨床研修を修了（2023 年度）した後、2024 年度以降、医学研究科博士課程へ入学可能な者が追加していくことと考える。

<東日本と近隣の医学研究科における定員充足状況>

東日本における私立医科大学医学系研究科の入学定員・入学者数・充足率及び平均値を比較検討した（表 1）。各大学の入学者の状況をみると、入学者数の平均値は約 43 名で定員充足率の平均値は約 77%に留まっているが、全研究科にて 10 名以上の入学者を確保している。

| NO | 大学名 | 研究科等名 | 入学定員 | 入学者数 | 充足率 | 医学部医学科の入学定員 |
|--------|------------|--------|-------|------|--------|-------------|
| 1 | 岩手医科大学 | 医学研究科 | 50 | 36 | 72.0% | 130 |
| 2 | 自治医科大学 | 医学研究科 | 25 | 30 | 120.0% | 123 |
| 3 | 獨協医科大学 | 医学研究科 | 41 | 39 | 95.1% | 120 |
| 4 | 埼玉医科大学 | 医学研究科 | 50 | 18 | 36.0% | 130 |
| 5 | 国際医療福祉大学 | 医学研究科 | 20 | 19 | 95.0% | 140 |
| 6 | 杏林大学 | 医学研究科 | 34 | 14 | 41.2% | 117 |
| 7 | 慶應義塾大学 | 医学研究科 | 80 | 86 | 107.5% | 113 |
| 8 | 順天堂大学 | 医学研究科 | 160 | 177 | 110.6% | 140 |
| 9 | 昭和大学 | 医学研究科 | 60 | 60 | 100.0% | 110 |
| 10 | 帝京大学 | 医学研究科 | 70 | 39 | 55.7% | 120 |
| 11 | 東京医科大学 | 医学研究科 | 68 | 45 | 66.2% | 120 |
| 12 | 東京慈恵会医科大学 | 医学研究科 | 69 | 43 | 62.3% | 110 |
| 13 | 東京女子医科大学 | 医学研究科 | 39 | 22 | 56.4% | 110 |
| 14 | 東邦大学 | 医学研究科 | 35 | 39 | 111.4% | 115 |
| 15 | 日本大学 | 医学研究科 | 64 | 38 | 59.4% | 120 |
| 16 | 日本医科大学 | 医学研究科 | 70 | 48 | 68.6% | 121 |
| 17 | 北里大学 | 医療系研究科 | 40 | 28 | 70.0% | 119 |
| 18 | 聖マリアンナ医科大学 | 医学研究科 | 60 | 28 | 46.7% | 115 |
| 19 | 東海大学 | 医学研究科 | 35 | 13 | 37.1% | 118 |
| 私立大学 計 | | | 1,070 | 822 | 76.8% | 2,291 |
| 平均値 | | | 56.3 | 43.3 | 76.8% | 120.6 |

※ 大学入学情報図書館RENAアンケート調査（2019 年度）、大学ポータル版（日本私立学校振興・共済事業団作成・運営）及び各大学ホームページから本学にて作成

表 1：私立医科大学医学研究科（東日本）の入学定員・入学者数・充足率及び基礎となる学部（医学部医学科）の入学定員一覧（2019）（再掲）

また、近隣の私立医科大学医学系研究科博士課程における入学定員・入学者数及び充足率（表 4）を見てみると、自治医科大学大学院医学研究科博士課程では毎年入学定員 25 名を上回る 29 名～33 名の学生を集めている。一方、岩手医科大学大学院医学研究科博士課程は全年度において未充足であり、獨協医科大学大学院医学研究科博士課程も 2017 年度を除くと未充足が続いている。しかし、入学者数を見ると、岩手医科大学大学院医学研究科博士課程は 28 名～43 名、獨協医科大学大学院医学研究科博士課程は 26 名～42 名と、年度によつてばらつきはあるものの、毎年 26 名以上の入学者を集めており、一定の底堅い入学需要があると考えられる。

上述のとおり、本研究科は、修学資金枠を定員の半数余りとしている本学医学部の特殊性も考慮し、入学定員を 10 名と設定しているが、他大学の状況を見ても、学生の確保が可能であると考えられる。

| 所在地 | 大学院名 | 研究科・課程 | 入学定員 | 入学者数及び定員充足率 | | | | |
|-----|-----------|---------------|------|-------------|--------|--------|--------|--------|
| | | | | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
| 岩手県 | 岩手医科大学大学院 | 医学研究科 博士課程 | 50名 | 36名 | 43名 | 36名 | 31名 | 28名 |
| | | | | 72.0% | 86.0% | 72.0% | 62.0% | 56.0% |
| 栃木県 | 自治医科大学大学院 | 医学研究科 博士課程 | 25名 | 33名 | 30名 | 30名 | 33名 | 29名 |
| | | | | 132.0% | 120.0% | 120.0% | 132.0% | 116.0% |
| 栃木県 | 獨協医科大学大学院 | 医学研究科 博士課程 | 41名 | 42名 | 33名 | 39名 | 26名 | 31名 |
| | | | | 102.4% | 80.5% | 95.1% | 63.4% | 75.6% |

※上記数値については、各大学ホームページから本学にて集計・作成

表 4：東北医科薬科大学大学院医学研究科医学専攻（博士課程）と類似する近隣私立大学大学院医学研究科（博士課程）の入学者数及び定員充足率の推移

まとめ

- 1) <医学研究科博士課程入学者の現況>を踏まえ、本研究科では、医学部医学科出身者に加え、医学部医学科以外の出身者や社会人学生、専攻医も入学対象者としていること
- 2) <本学医学部の入試状況>を踏まえ、本研究科の基礎となる本学医学部では、過去 6 年間すべてにおいて定員を充足しており、本学 1 期生（2021 年度卒業）が臨床研修を修了（2023 年度）後、2024 年度以降、本研究科へ入学可能な者が逡加していくこと
- 3) <東日本と近隣の医学研究科における定員充足状況>を踏まえ、東日本の医学研究科において充足率の状況は様々であるが、10 名以上入学していることや近隣の医学研究科も、26 名以上集めていること。

から、本学の入学定員 10 名は適正規模であると同時に、長期的かつ安定的に入学者を確保できる設定である。

③定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本研究科の定員充足の根拠を示すため、下記により、ウェブアンケートシステムによる本研究科への入学意向調査を実施した。調査は、アンケートの趣旨、設置の理念、人材養成の目的、教育研究上の目的、履修の特色、学納金、大学院修了後の主な進路先等の情報を提示したうえで実施し、集まった回答をもとに、定員充足の根拠となるデータ分析を行った。

【調査名称】

東北医科薬科大学大学院 医学研究科 医学専攻（博士課程）（仮称）の設置に関するアンケート調査^{1・2}

【調査対象者】

- 1) 本学医学部教員（博士号未取得者）
- 2) 本学附属病院研修医・専攻医
- 3) 医療関係職者（本学附属病院、宮城県薬剤師会、宮城県病院薬剤師会）
- 4) 本学医学部在学学生（4～6年生）
- 5) 本学薬学部在学学生（5～6年生）
- 6) 修士課程在学学生（本学薬科学専攻、近隣大学院修士課程）

【調査方法】

ウェブアンケートシステムによる匿名のアンケート

【調査期間】

令和4年2月4日～令和4年2月28日

<調査回答者について>

前述の調査対象者に対し、広く調査への協力を依頼したところ、484名（内男性296名、女性188名）から有効回答を得ることができた³。有効回答者484名の職種及び学年等の内訳は表5に示すとおりであり、前述の調査対象者の区分では、それぞれ1) 本学医学部教員（博士号未取得者）が38名、2) 本学附属病院研修医・専攻医が32名、3) 医療関係職者（本学附属病院、宮城県薬剤師会、宮城県病院薬剤師会）が65名、4) 本学医学部在学学生（4～6年生）が227名、5) 本学薬学部在学学生（5～6年生）が111名、6) 修士課程在学学生（本学薬科学専攻、近隣大学院修士課程）が11名となった。

別添資料1：東北医科薬科大学大学院 医学研究科 医学専攻（博士課程）（仮称）の設置に関するアンケート調査リーフレット

別添資料2：東北医科薬科大学大学院 医学研究科 医学専攻（博士課程）（仮称）の設置に関するアンケート調査設問一覧

別添資料3：東北医科薬科大学大学院 医学研究科 医学専攻（博士課程）（仮称）の設置に関するアンケート調査回答集計

| 大区分 | 質問内容 問2.職種・学年等 | 回答数 | 問1.性別 | | | 問3. 東北医科薬科大学大学院医学研究科医学専攻（博士課程）（仮称）について興味・関心がありますか。 （3.を選択した方は回答終了） | | | 問4. 2023年4月開設予定の東北医科薬科大学大学院医学研究科医学専攻（博士課程）（仮称）を受験し、合格された場合、入学を希望されますか。 （4.を選択した方は回答終了） | | | | 問5. 東北医科薬科大学大学院医学研究科医学専攻（博士課程）（仮称）に進学した場合、どの学問領域での研究を希望されますか。 | | | | 問6. どのような学習環境があれば進学しやすいですか。 （複数回答可） | | | | |
|-------------|----------------------|-----|-------|------|---------------|---|------------|-----------|---|------------------------|------------|--|---|--|-----------------------|---------|--|----------|---------------------|-------|--|
| | | | 1.男性 | 2.女性 | 1.大いに興味・関心がある | 2.興味・関心がある | 3.興味・関心はない | 1.進学を希望する | 2.開設後、5年以内の進学を検討する | 3.将来、必要を感じた場合には進学を検討する | 4.進学を希望しない | 1.基礎医学領域（諸疾患の病態を生命科学的に解析し、その成果の臨床応用を目指す研究領域） | 2.臨床医学領域（新たな診断・治療法の開発および臨床応用を目指す研究領域） | 3.社会地域医学領域（地域医療が抱える課題を、医療的側面と社会的側面から、その相互作用も含めて解決を目指す研究領域） | 問4にて、1～3を回答したもののうち未回答 | 1.夜間の開講 | 2.土曜日の開講 | 3.長期履修制度 | 4.専門研修（専攻医）期間中の進学環境 | 5.その他 | |
| 1) 医学部教員 | 01.医学部教員 | 38 | 24 | 14 | 8 | 13 | 17 | 9 | 1 | 8 | 3 | 2 | 10 | 6 | 11 | 13 | 8 | 3 | 5 | | |
| 2) 研修医・専攻医 | 02.研修医（1年目） | 9 | 8 | 1 | 0 | 5 | 4 | 0 | 0 | 4 | 1 | 2 | 2 | 0 | 3 | 0 | 1 | 2 | 0 | | |
| | 03.研修医（2年目） | 11 | 9 | 2 | 3 | 5 | 3 | 2 | 3 | 3 | 0 | 1 | 5 | 2 | 2 | 3 | 3 | 7 | 0 | | |
| | 04.専攻医 | 12 | 10 | 2 | 1 | 10 | 1 | 1 | 3 | 5 | 2 | 3 | 5 | 1 | 5 | 5 | 5 | 2 | 0 | | |
| 3) 医療関係職 | 05.看護師（修士課程修了） | 11 | 1 | 10 | 1 | 8 | 2 | 0 | 0 | 9 | 0 | 1 | 0 | 8 | 5 | 6 | 8 | 1 | 1 | | |
| | 06.薬剤師（学部卒業（06年制課程）） | 36 | 25 | 11 | 12 | 16 | 8 | 10 | 2 | 11 | 5 | 5 | 7 | 11 | 17 | 17 | 6 | 2 | 3 | | |
| | 07.薬剤師（修士課程修了） | 10 | 5 | 5 | 1 | 6 | 3 | 3 | 0 | 4 | 0 | 2 | 3 | 2 | 4 | 5 | 4 | 1 | 0 | | |
| | 08.医療技術職（修士課程修了） | 8 | 3 | 5 | 5 | 3 | 0 | 5 | 1 | 2 | 0 | 1 | 4 | 3 | 6 | 4 | 4 | 0 | 0 | | |
| 4) 医学部学生 ※ | 09.医学部生（6年生） | 65 | 50 | 15 | 12 | 36 | 17 | 2 | 9 | 35 | 2 | 2 | 28 | 14 | 2 | 22 | 23 | 21 | 29 | 5 | |
| | 10.医学部生（5年生） | 80 | 62 | 18 | 10 | 47 | 23 | 5 | 3 | 45 | 4 | 5 | 31 | 11 | 6 | 30 | 32 | 26 | 29 | 5 | |
| | 11.医学部生（4年生） | 82 | 55 | 27 | 12 | 44 | 26 | 5 | 8 | 42 | 1 | 5 | 36 | 13 | 1 | 20 | 25 | 26 | 38 | 11 | |
| 5) 薬学部学生 | 12.薬学部生（6年生） | 47 | 24 | 23 | 2 | 16 | 29 | 0 | 1 | 12 | 5 | 2 | 6 | 5 | 9 | 6 | 5 | 3 | 0 | | |
| | 13.薬学部生（5年生） | 64 | 16 | 48 | 3 | 14 | 47 | 2 | 0 | 8 | 7 | 2 | 4 | 3 | 4 | 7 | 6 | 2 | 0 | | |
| 6) 修士課程在学学生 | 14.薬科学 | 8 | 3 | 5 | 1 | 2 | 5 | 1 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | | |
| | 15.看護学 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 16.農学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 17.理学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 18.工学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 19.その他（健康栄養学） | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | |
| 合計 | | 484 | 296 | 188 | 71 | 228 | 185 | 45 | 31 | 193 | 30 | 37 | 142 | 80 | 10 | 142 | 150 | 126 | 121 | 30 | |

学問領域希望比率： 13.8% 52.8% 29.7% 3.7%

| 設問番号 | 問1 ※必須 | 問3 ※必須 | 問4 | 問5 | 問6 ※複数選択可 |
|-------|--------|--------|-----|-----|-----------|
| 有効回答数 | 484 | 484 | 299 | 269 | 569 |

※医学部在学学生は卒業後、2年間の臨床研修が修了した後、本研究科への進学が可能となる。

表5：東北医科薬科大学大学院 医学研究科 医学専攻（博士課程）（仮称）の設置に関するアンケート調査回答内訳

<本医学研究科への「興味・関心」について>

問3. にて「東北医科薬科大学大学院医学研究科医学専攻（博士課程）（仮称）について興味・関心がありますか。」との質問をしたところ、「1.大いに興味関心がある」の回答が71名（14.7%）、「2.興味・関心がある」の回答が228名（47.1%）おり、アンケート回答者のうち299名（61.8%）が本研究科に何らかの「興味・関心」を抱いていることが伺える。

<本医学研究科への「進学意向」について>

問4. にて、問3.の質問に対し「1.大いに興味関心がある」、「2.興味・関心がある」と回答した299名を対象に「2023年4月開設予定の東北医科薬科大学大学院医学研究科医学専攻（博士課程）（仮称）を受験し、合格された場合、入学を希望されますか。」と質問をしたところ、45名から「1.進学を希望する」、31名から「2.開設後、5年以内の進学を検討する」、193名から「3.将来、必要を感じた場合には進学を検討する」との回答を得ることができた。程度の差はあるものの、本学に興味を示している299名のうち合計269名（90.0%）が本研究科への入学意向を示している。

「1.進学を希望する」と回答した45名の内訳は表6に示したとおりであり、本学附属病院に勤務している医師が12名（医学部教員9名、研修医・専攻医3名）、医療関係職が18名、本学医学部学生が12名、本学薬学部学生が2名、修士課程在学生在が1名であった。

45名のうち、本学医学部学生（12名）は卒業後2年間の臨床研修を修了した後に入学資格を得るが、それ以外の33名は開設（2023年度）と同時に入学可能であるため、開設年度の定員充足を十分に見込むことができる。

| 大区分 | 人数 | 割合 | 内訳 | 人数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|----------------------|-----|--------|
| 1) 医学部教員 | 9名 | 20.0% | 01.医学部教員 | 9名 | 20.0% |
| 2) 研修医・専攻医 | 3名 | 6.7% | 02.研修医（1年目） | 0名 | 0.0% |
| | | | 03.研修医（2年目） | 2名 | 4.4% |
| | | | 04.専攻医 | 1名 | 2.2% |
| 3) 医療関係職 | 18名 | 40.0% | 05.看護師（修士課程修了） | 0名 | 0.0% |
| | | | 06.薬剤師（学部卒業（06年制課程）） | 10名 | 22.2% |
| | | | 07.薬剤師（修士課程修了） | 3名 | 6.7% |
| | | | 08.医療技術職（修士課程修了） | 5名 | 11.1% |
| 4) 医学部学生 ※ | 12名 | 26.7% | 09.医学部生（6年生） | 2名 | 4.4% |
| | | | 10.医学部生（5年生） | 5名 | 11.1% |
| | | | 11.医学部生（4年生） | 5名 | 11.1% |
| 5) 薬学部学生 | 2名 | 4.4% | 12.薬学部生（6年生） | 0名 | 0.0% |
| | | | 13.薬学部生（5年生） | 2名 | 4.4% |
| 6) 修士課程在学生在 | 1名 | 2.2% | 14.薬科学 | 1名 | 2.2% |
| | | | 15.看護学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 16.農学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 17.理学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 18.工学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 19.その他（健康栄養学） | 0名 | 0.0% |
| 計 | 45名 | 100.0% | 計 | 45名 | 100.0% |

※医学部在学生在は卒業後、2年間の臨床研修が修了した後、本研究科への進学が可能となる。

表6：「1.進学を希望する」の回答者内訳

「2.開設後、5年以内の進学を検討する」と回答した31名の内訳は表7に示したとおりであり、本学附属病院に勤務している医師が7名（医学部教員1名、研修医・専攻医6名）、医療関係職が3名、本学医学部学生が20名（6年生9名、5年生3名、4年生8名）、本学薬学部学生が1名（6年生）であった。

本学医学部学生においては、開設年度に入学資格はないものの、上述した「1.進学を希望する」と回答した学生12名（6年生2名、5年生5名、4年生5名）と「2.開設後、5年以内の進学を検討する」と回答した学生20名（6年生9名、5年生3名、4年生8名）を合わせると、本研究科への明確な進学意向を持っている学生が6年生に11名、5年生に8名、4年生に13名と、各学年に10名前後在籍していることがわかった。臨床研修を終えたこれらの学生が、開設2年目（2024年度）以降は、本研究科へ進学することが考えられる。さらに、医学部学生以外の11名も「2.開設後、5年以内の進学を検討する」と回答しており、開設2年目以降も定員10名に対し、安定した学生の確保が見込まれる。

| 大区分 | 人数 | 割合 | 内訳 | 人数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|----------------------|-----|--------|
| 1) 医学部教員 | 1名 | 3.2% | 01.医学部教員 | 1名 | 3.2% |
| 2) 研修医・専攻医 | 6名 | 19.4% | 02.研修医（1年目） | 0名 | 0.0% |
| 3) 医療関係職 | 3名 | 9.7% | 03.研修医（2年目） | 3名 | 9.7% |
| 4) 医学部学生 ※ | 20名 | 64.5% | 04.専攻医 | 3名 | 9.7% |
| 5) 薬学部学生 | 1名 | 3.2% | 05.看護師（修士課程修了） | 0名 | 0.0% |
| 6) 修士課程在学学生 | 0名 | 0.0% | 06.薬剤師（学部卒業（06年制課程）） | 2名 | 6.5% |
| | | | 07.薬剤師（修士課程修了） | 0名 | 0.0% |
| | | | 08.医療技術職（修士課程修了） | 1名 | 3.2% |
| | | | 09.医学部生（6年生） | 9名 | 29.0% |
| | | | 10.医学部生（5年生） | 3名 | 9.7% |
| | | | 11.医学部生（4年生） | 8名 | 25.8% |
| | | | 12.薬学部生（6年生） | 1名 | 3.2% |
| | | | 13.薬学部生（5年生） | 0名 | 0.0% |
| | | | 14.薬科学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 15.看護学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 16.農学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 17.理学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 18.工学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 19.その他（健康栄養学） | 0名 | 0.0% |
| 計 | 31名 | 100.0% | 計 | 31名 | 100.0% |

※医学部在学学生は卒業後、2年間の臨床研修が修了した後、本研究科への進学が可能となる。

表7：「2.開設後、5年以内の進学を検討する」の回答者内訳

「3.将来、必要を感じた場合には進学を検討する」と回答した193名の内訳は表8に示したとおりであり、本学附属病院に勤務している医師が20名（医学部教員8名、研修医・専攻医12名）、医療関係職が26名、本学医学部学生が122名、本学薬学部学生が20名、修士課程在学学生が5名であった。特に本学医学部学生（4～6年生 300名）の4割程度が必要を感じた場合の本研究科への進学を検討しており、将来的には臨床研修を終えた多くの本学医学部卒業生の進学が大いに期待できる。

また、医療従事者や修士課程学生の中にも本研究科への潜在的な進学意向のある人たちが少なくないことがわかった。従って、社会人学生が学修しやすい制度（夜間・土曜日の開

講、長期履修制度)を整備し、キャリア形成の場として本研究科を広く周知することで、長期的にも安定した学生の確保が見込まれる。

| 大区分 | 人数 | 割合 | 内訳 | 人数 | 割合 |
|-------------|------|--------|----------------------|------|--------|
| 1) 医学部教員 | 8名 | 4.1% | 01.医学部教員 | 8名 | 4.1% |
| 2) 研修医・専攻医 | 12名 | 6.2% | 02.研修医(1年目) | 4名 | 2.1% |
| 3) 医療関係職 | 26名 | 13.5% | 03.研修医(2年目) | 3名 | 1.6% |
| | | | 04.専攻医 | 5名 | 2.6% |
| 4) 医学部学生 ※ | 122名 | 63.2% | 05.看護師(修士課程修了) | 9名 | 4.7% |
| | | | 06.薬剤師(学部卒業(06年制課程)) | 11名 | 5.7% |
| 5) 薬学部学生 | 20名 | 10.4% | 07.薬剤師(修士課程修了) | 4名 | 2.1% |
| | | | 08.医療技術職(修士課程修了) | 2名 | 1.0% |
| 6) 修士課程在学学生 | 5名 | 2.6% | 09.医学部生(6年生) | 35名 | 18.1% |
| | | | 10.医学部生(5年生) | 45名 | 23.3% |
| 計 | 193名 | 100.0% | 11.医学部生(4年生) | 42名 | 21.8% |
| | | | 12.薬学部生(6年生) | 12名 | 6.2% |
| | | | 13.薬学部生(5年生) | 8名 | 4.1% |
| | | | 14.薬科学 | 2名 | 1.0% |
| | | | 15.看護学 | 1名 | 0.5% |
| | | | 16.農学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 17.理学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 18.工学 | 0名 | 0.0% |
| | | | 19.その他(健康栄養学) | 2名 | 1.0% |
| | | | 計 | 193名 | 100.0% |

※医学部在学学生は卒業後、2年間の臨床研修が修了した後、本研究科への進学が可能となる。

表8:「3.将来、必要を感じた場合には進学を検討する」の回答者内訳

<「進学希望領域」について>

本研究科の教育課程における特論科目及び、演習科目は、次の3つの領域から構成されている。

- 1) 基礎医学領域(諸疾患の病態を生命科学的に解析し、その成果の臨床応用を目指す研究領域)
- 2) 臨床医学領域(新たな診断・治療法の開発および臨床応用を目指す研究領域)
- 3) 社会地域医学領域(地域医療が抱える課題を、医療的側面と社会的側面から、その相互作用も含めて解決を目指す研究領域)

これらの領域について、問5.にて、問4.の質問に対し、「1.進学を希望する」、「2.開設後、5年以内の進学を検討する」、「3.将来、必要を感じた場合には進学を検討する」と回答した269名を対象に、「東北医科薬科大学大学院医学研究科医学専攻(博士課程)(仮称)に進学した場合、どの学問領域での研究を希望されますか。」と質問をしたところ、「1.基礎医学領域」の回答が37名、「2.臨床医学領域」の回答が142名、「3.社会地域医学領域」の回答が80名、未回答が10名であった。

また、表9に示したとおり、進学意向別の入学希望領域においても回答者全体の割合に対し、極端なばらつきはなく、希望者実数の大小はあるが、それぞれの領域に確実なニーズがあることが伺える。

| 問4. 2023年4月開設予定の東北医科薬科大学大学院医学研究科医学専攻(博士課程)(仮称)を受験し、合格された場合、入学を希望されますか。 | 問5. 東北医科薬科大学大学院医学研究科医学専攻(博士課程)(仮称)に進学した場合、どの学問領域での研究を希望されますか。 | | | | 計 | |
|--|---|---------------------------------------|--|-----------------------|------|--------|
| | 1.基礎医学領域(諸疾患の病態を生命科学的に解析し、その成果の臨床応用を目指す研究領域) | 2.臨床医学領域(新たな診断・治療法の開発および臨床応用を目指す研究領域) | 3.社会地域医学領域(地域医療が抱える課題を、医療的側面と社会的側面から、その相互作用も含めて解決を目指す研究領域) | 問4にて、1～3を回答したもののうち未回答 | | |
| 1.進学を希望する | 回答数 | 7 | 30 | 8 | 0 | 45 |
| | 割合 | 15.6% | 66.7% | 17.8% | 0.0% | 100.0% |
| 2.開設後、5年以内の進学を検討する | 回答数 | 4 | 19 | 7 | 1 | 31 |
| | 割合 | 12.9% | 61.3% | 22.6% | 3.2% | 96.8% |
| 3.将来、必要を感じた場合には進学を検討する | 回答数 | 26 | 93 | 65 | 9 | 193 |
| | 割合 | 13.5% | 48.2% | 33.7% | 4.7% | 95.3% |
| 全体 | 回答数 | 37 | 142 | 80 | 10 | 269 |
| | 割合 | 13.8% | 52.8% | 29.7% | 3.7% | 100.0% |

表9：進学の意向と入学希望領域の内訳

<「学習環境」について>

問6.にて、本研究科への進学意向のある回答者への「どのような学習環境があれば進学しやすいですか。(複数選択可)」という質問では、142名が「1.夜間の開講」、150名が「2.土曜日の開講」、126名が「3.長期履修制度」と回答しており、働きながら学修可能な制度に高い関心が見られる。本研究科では14条特例に基づく「夜間・土曜日の開講」や、長期履修制度を導入するため、これらのニーズに応えることが可能である。

また、医師のうち14名、医学部生のうち96名が「4.専門研修(専攻医)期間中の進学環境」と回答しており、医師のキャリア形成に対し高い関心があることが分かった。なお、本学附属病院においては専門研修中に進学可能なプログラムを実施する予定であり、これらのニーズに応えることが可能である。

「5.その他」ではオンラインでの授業を望む回答が多数見られた。本研究科では特論科目の講義において1科目あたり、1/3まで遠隔授業システムを利用した受講を可能としており、そのような要望へも対応できると考えている。また、学生に対しては、個人アカウントとメールアドレスを全員に配付するとともにサーバ上に個人ごとにフォルダを用意する。さらに、VPN(Virtual Private Network)の利用により、授業教材やLMS(Learning Management System)、オンデマンド配信システム、電子ジャーナル閲覧等に自宅等学外から安全にアクセスして活用できる環境を整備する。

④学生納付金の設定の考え方

本研究科の学生納付金の設定にあたり、表10に示した本学既設の薬学研究科並びに全国の医学系研究科の学生納付金の設定状況を鑑み、既設の本学薬学研究科と同額(入学金：200,000円、授業料：400,000円)に設定した。

○私立医学系大学院(4年制課程) 授業料等比較(2022年度入学生)

| | 大学名 | 研究科名 | 入学金 | 授業料 | 実習費 | その他 | 初年度合計 | 2年以降合計 |
|----|------------|--------|---------|-----------|---------|---------|-----------|-----------|
| 1 | 岩手医科大学 | 医学研究科 | | 425,000 | | 300,000 | 725,000 | 425,000 |
| 2 | 自治医科大学 | 医学研究科 | 282,000 | 585,800 | | | 867,800 | 585,800 |
| 3 | 獨協医科大学 | 医学研究科 | 150,000 | 450,000 | | | 600,000 | 450,000 |
| 4 | 埼玉医科大学 | 医学研究科 | 300,000 | 500,000 | | 200,000 | 1,000,000 | 700,000 |
| 5 | 国際医療福祉大学 | 医学研究科 | 200,000 | 600,000 | | 100,000 | 900,000 | 700,000 |
| 6 | 杏林大学 | 医学研究科 | 250,000 | 600,000 | | 200,000 | 1,050,000 | 600,000 |
| 7 | 慶應義塾大学 | 医学研究科 | | 1,110,000 | | 60,000 | 1,170,000 | 1,170,000 |
| 8 | 順天堂大学 | 医学研究科 | 200,000 | 400,000 | 150,000 | | 750,000 | 550,000 |
| 9 | 昭和大学 | 医学研究科 | 100,000 | 400,000 | 100,000 | 300,000 | 900,000 | 500,000 |
| 10 | 帝京大学 | 医学研究科 | 306,000 | 683,400 | | 214,200 | 1,203,600 | 897,600 |
| 11 | 東京医科大学 | 医学研究科 | 100,000 | 400,000 | | | 500,000 | 400,000 |
| 12 | 東京慈恵会医科大学 | 医学研究科 | 100,000 | 400,000 | | | 500,000 | 400,000 |
| 13 | 東京女子医科大学 | 医学研究科 | 310,000 | 350,000 | 500,000 | | 1,160,000 | 850,000 |
| 14 | 東邦大学 | 医学研究科 | 100,000 | 500,000 | | 100,000 | 700,000 | 600,000 |
| 15 | 日本大学 | 医学研究科 | 200,000 | 700,000 | | 500,000 | 1,400,000 | 700,000 |
| 16 | 日本医科大学 | 医学研究科 | | 250,000 | | | 250,000 | 250,000 |
| 17 | 北里大学 | 医療系研究科 | 200,000 | 685,000 | | 100,000 | 985,000 | 785,000 |
| 18 | 聖マリアンナ医科大学 | 医学研究科 | 100,000 | 400,000 | | | 500,000 | 400,000 |
| 19 | 東海大学 | 医学研究科 | 300,000 | 735,000 | 211,000 | 200,000 | 1,446,000 | 1,146,000 |
| 20 | 金沢医科大学 | 医学研究科 | 200,000 | 400,000 | 200,000 | 100,000 | 900,000 | 700,000 |
| 21 | 愛知医科大学 | 医学研究科 | 200,000 | 200,000 | | 100,000 | 500,000 | 300,000 |
| 22 | 藤田医科大学 | 医学研究科 | 150,000 | 300,000 | | | 450,000 | 300,000 |
| 23 | 大阪医科大学 | 医学研究科 | 230,000 | 350,000 | | 150,000 | 730,000 | 500,000 |
| 24 | 関西医科大学 | 医学研究科 | 200,000 | 500,000 | | | 700,000 | 500,000 |
| 25 | 近畿大学 | 医学研究科 | 200,000 | 1,000,000 | | | 1,200,000 | 1,000,000 |
| 26 | 兵庫医科大学 | 医学研究科 | 100,000 | 150,000 | 100,000 | | 350,000 | 250,000 |
| 27 | 川崎医科大学 | 医学研究科 | 200,000 | 500,000 | 学生負担 | 100,000 | 800,000 | 600,000 |
| 28 | 久留米大学 | 医学研究科 | 250,000 | 480,000 | 120,000 | | 850,000 | 600,000 |
| 29 | 産業医科大学 | 医学研究科 | 282,000 | 585,800 | | | 867,800 | 585,800 |
| 30 | 福岡大学 | 医学研究科 | 120,000 | 560,000 | | 140,000 | 820,000 | 700,000 |
| | 平均値 | | 197,407 | 506,667 | 197,286 | 179,013 | 825,840 | 604,840 |
| 参考 | 東北医科薬科大学 | 薬学研究科 | 200,000 | 400,000 | | | 600,000 | 400,000 |
| 参考 | 東北大学 | 医学系研究科 | 282,000 | 535,800 | | | 817,800 | 535,800 |

※上記の金額は、各大学のホームページ及び募集要項から本学のものにて集計・作成

表 10：全国私立医科大学医学系大学院（4年制課程）学生納付金一覧

また、本研究科の学生に対する経済的支援について、既設の薬学研究科と同様、リサーチ・アシスタント制度を採用し、研究補助者としての従事に対する手当支給を行い、就学及び育成に寄与しながら経済的な負担を軽減できる機会を設ける予定である。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けて、以下の3つの側面から取組を実施予定である。

① 広報・募集活動における取組

1) 不特定の対象者への広報

- ・ 大学ホームページに本研究科のコンテンツを設け、SNS も使いながら、本研究科のカリキュラム・履修モデル・研究内容・教員情報・研究施設等に係る情報などを、積極的に発信する。また、本研究科の大学院生募集に係る大学院説明会および公開講座や研究室見学を定期的に開催し、開催通知を本研究科専用ホームページやSNS でタイムリーに発信する。
- ・ 既設の本学広告看板や進学情報サイトを利用して、教育・研究内容等を広報する。
- ・ 本学オープンキャンパスで、ブースを設け、本研究科設置の目的・趣旨、研究科の概要、履修モデルや試験制度等をパンフレット等で説明する。

2) 本学医学部・薬学部の在学生及び卒業生、本学附属病院研修医・専攻医・医療関係者への広報

- ・ 学部オリエンテーション、臨床研修及び専門研修プログラム説明会や病院新採用者説明会で本研究科について説明する。
- ・ 定期的で開催する大学院説明会、公開講座や研究室見学を学内広報ツールで周知する。
- ・ 本学の研究推進活動の一環として、本研究科の研究・教員紹介を定期的で開催する。
- ・ 本学医学部は2022年3月に初めて卒業生を輩出するが、先輩との交流や情報提供のための同窓会的な組織がないことから、本学医学部に、2022年度4月、医学部卒業生交流支援センターを開設する。同センターからも、キャリア形成の一つとして、本研究科での学位取得について定期的に発信する。

3) 関係施設・団体への広報

- ・ 医療・生命科学修士課程を有する近隣大学や教育及び診療で本学医学部と連携している医療施設へ、パンフレットを配布する。
- ・ 研究交流している施設関係者に、本学教員からパンフレット等を配布し、本研究科を紹介する。

② 受験・入学に際した取組

受験生の利便性を考え、本研究科ホームページからのインターネット出願を可能とする。

③ 修学支援に関する取組

- 1) 本研究科では夜間・土曜日の開講（14条特例）や長期履修制度など、社会人学生のニーズに応えるため、働きながら学修しやすい制度を導入する。
- 2) 授業教材やLMS (Learning Management System)、オンデマンド配信システム、電子ジャーナル閲覧等に自宅等学外から安全にアクセスして活用できる学習環境を整備し、説明会やホームページ等で周知する。
- 3) 本学附属病院において、専攻医については、専門研修中に本研究科進学が可能となる研修プログラムを実施する。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

現在、地方の医療は、医師を始めとする医療スタッフの慢性的な不足という医療面での課題に加え、少子高齢化や人口減少をはじめとした地域社会の持続可能性という大きな社会課題に向き合っている。これらの課題に直面している地域医療を鑑みるとき、医学研究科博士課程に求められる必要性として、以下の3点が挙げられる。

- 1) 高度な専門的視野に加えそれぞれの専門性や役割を理解した上で、地域社会との

関わりを通じてともに地域医療を支えていくという使命感を有する人材の育成など、地域完結型医療の推進に応える必要性がある。

- 2) 高齢者特有の病態を理解して臓器横断的に総合的な診療を実践し、遠隔診療などを活用しながら高度な診療を提供できるチームを構成する人材の育成など、超高齢社会に対応した高度・先進的医療技術の開発と臨床応用の推進を支える必要性がある。
- 3) 質の高い医療を継続的に提供する体制の構築にとどまらず、地域医療に関する課題を発見し、次のステップを提言できる高度な知識・技能とリーダーシップ・使命感を持った人材の育成など、持続可能な地域医療の構築に応える必要性がある。

これらの必要性に応えるためには、地域社会における医療ニーズを理解しながら、地域課題を発見・解決し、最適な医療の提供や医療提供体制整備に貢献することにより、持続可能な地域社会の構築に強い使命感と高度な知識・技能とリーダーシップを併せ持つ研究者・高度専門職業人の育成が必要である。そこで、医学研究科を設置し、建学の精神である「われら真理の扉をひらかむ」を地域社会において実践すべく、地域医療の課題解決に向けて不断の努力で取り組むことができる医学・生命科学研究者または高度専門職業人を養成する。

(2) 上記が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①我が国が直面する課題と大学が果たすべき役割

少子高齢化が進む超高齢社会の我が国は、2008年(平成20年)に人口のピークを迎え⁴、その後の急速な人口減少の局面にある。人口に占める65歳以上人口の割合は、2015(平成27年)年の26.6%から、2040年には35.3%となり、2060年には38.1%になると推計されている⁵。少子高齢化と人口減少は東北地方で著しく、推計されている2015年から2040年の高齢化率の変化(同時期での人口減少率)は、東北6県で29.2%から41.5%(2015年人口の75.0%)、それぞれ、宮城県で25.7%から37.9%(82.8%)、青森県で30.1%から44.3%(69.5%)、岩手県で30.4%から41.2%(74.8%)、秋田県で33.8%から47.5%(65.8%)、山形県で30.8%から41.0%(74.2%)、福島県で28.7%から42.2%(74.5%)である⁶。

この危機を乗り越え、持続可能な地域社会を構築するための新たな自治体行政の考え方として、地方圏での市町村を超えた圏域マネジメントの必要性が示されている⁷。また、2050年に向けた「国土のグランドデザイン」の基本戦略として、コンパクトな拠点と拠点を結ぶネットワークの構築が掲げられている⁸。持続可能な地域社会構築のための施策に整合する地域医療の構築は政府の方針であり、「経済財政運営と改革の基本方針2021」では、地域医療構想の着実な進展を明記している⁹。

これらの施策の促進のために地方大学の果たすべき役割は大きい。内閣官房では、地方創生への貢献をミッションとする東京圏以外に立地する大学を「地方大学」と位置づけている¹⁰。そして、魅力ある学びの場を作り、地域の中核的産業の振興とこれを担う実践的な専門人材の育成、また、地域におけるイノベーション創出を推進する「魅力ある地方大学の創出」

を地方創生の基本方針のひとつとして閣議決定している¹¹。

②健康長寿社会を支える技術・イノベーションを支える人材の必要性

平均寿命が延びている中で、健康寿命をさらに延ばしていくためには、診断・治療に加えて予防についても合わせて取り組むと同時に、罹患しても日常生活に出来るだけ制限を受けずに生活していく、すなわち、疾病と共生していくための取り組みを車の両輪として講じていくことが望まれる。総人口が減少する中で高齢化率が今後も上昇する状況下で国民に十分な医療や介護を提供していくためには、医療介護分野の担い手不足への対応や生産性の向上のための取り組みは不可欠である。世界的にも医療分野や生命科学分野での研究開発が加速する第4次産業革命のただ中にあり、AI、ロボット、ビッグデータなどのデジタル技術とデータの利活用が、産業構造や経済社会システム全体に大きな影響を及ぼしつつある。今後、こうした分野でのイノベーションが加速し、疾患メカニズムの解明や新たな診断・治療方法の開発、AI やビッグデータ等の利活用による創薬等の研究開発、個人の状態に合わせた個別化医療・精密医療等が進展し、地域医療で実装されていくことが見込まれる¹²。臨床上の課題や社会課題の解決を目指して、医療分野の研究開発における基礎的な研究開発から実用化のための研究開発までの一貫した研究開発の推進及びその成果の円滑な実用化を支える人材が求められる。

以上より、本研究科が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることは明らかである。また、表11に示したとおり、今回の進学意向調査で進学の意向を示した269名のうち、263名(97.8%)が入学時に医師や薬剤師などの何らかの医療職資格を有していることから、在職のまま入学する学生が多いことが想定され、修了後に修得した知識・技能を活用しながら、引き続きそれぞれの職場で地域社会に貢献すると考えられる。従って、本研究科の設置は、広く大学院教育・研究の場を提供し、志高い高度専門職業人または医学・生命科学研究者を養成・輩出することにより、地域社会の要請に応えるものである。



※東北医科薬科大学大学院 医学研究科 医学専攻（博士課程）（仮称）の設置に関するアンケート調査「問4. 2023年4月開設予定の東北医科薬科大学大学院医学研究科医学専攻（博士課程）（仮称）を受験し、合格された場合、入学を希望されますか。」の質問にて、「1.進学を希望する」「2.開設後、5年以内の進学を検討する」「3.将来、必要を感じた場合には進学を検討する」を選択した回答者の合計数

表11：東北医科薬科大学大学院 医学研究科 医学専攻（博士課程）への進学意向を示した調査対象者内訳

別添資料4：我が国の人口のピーク

別添資料5：将来推計人口

別添資料6：東北6県における人口の変化

別添資料7：圏域マネジメントと二層制の柔軟化

別添資料8：国土のランドデザイン2050 基本的考え方

別添資料9：団塊の世代の後期高齢者入りを見据えた基盤強化・全世代型社会保証改革

別添資料10：地方創生に資する地方大学が目指すべき方向性

別添資料11：魅力ある地方大学の創出

別添資料12：医療分野の研究開発に関する成果目標